

多度津町内遺跡発掘調査報告書3

# 盛土山古墳Ⅱ 宿地古墳

令和2年度香川県指定史跡「盛土山古墳」資料整理報告及び  
多度津町指定史跡「宿地古墳」測量調査報告

2021.3

多度津町教育委員会



# 序

今回調査対象となった香川県指定史跡「盛土山古墳」と多度津町指定史跡「宿地古墳」は多度津町の白方地区と多度津地区にある町を代表する古墳です。

現在文化財の活用が求められている中、文化財の情報発信のためには、既存の資料の検討や、発掘調査などによって文化財の内容を把握していくことは大変重要なことです。今回の調査によてもそれぞれの古墳について様々なことがわかつてきました。

本報告書が、香川県の考古学・歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財、ひいてはすべての文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、この発掘調査を実施するにあたり、ご指導いただいた関係各位並びに多大なご協力をいただきました調査地所有者の方々に厚く感謝申し上げる次第です。

令和3年3月  
多度津町教育委員会  
教育長 三木 信行

# 例　　言

1. 本書は、多度津町教育委員会が令和2年度に実施した、多度津町内遺跡調査及び収蔵資料整理についての報告書である。
2. 本書で報告する遺跡は盛土山古墳（香川県仲多度郡多度津町大字奥白方字片山）と宿地古墳（香川県仲多度郡多度津町大字青木字宿地）である。
3. 調査については多度津町教育委員会が調査主体となり、多度津町教育委員会教育課が担当した。
4. 報告書の作成は、多度津町教育委員会教育課社会教育係・白木 亨が担当した。
5. 報告書で用いる方位は指針方位で示した。標高は東京湾平均海面を基準とした。
6. 遺構平面図上の数値は、標高値（単位m）を示している。
7. 挿図の一部に国土交通省国土地理院発行の1/25,000地形図を使用した。
8. 出土遺物観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版 標準土色帖 1992年度版』を参照した。胎土中の砂粒の「粗」は径4mm以上、「中」は0.5mm以上、「細」は0.5mm未満を基準とした。
9. 出土遺物・遺構の記述・年代観・観察表の作成については各市町担当者のご教示や、下記文献を参考にした。  
「中間西井坪遺跡I」「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告」香川県教育委員会 1996  
「大野原古墳群I（楓賀塚古墳・平塚古墳・角塚古墳）」「観音寺市内遺跡発掘調査事業報告書」観音寺市教育委員会 2014  
「大野原古墳群II」「岩倉塚古墳確認調査報告書」観音寺市教育委員会 2019  
「香川県内出土の埴輪」香川県埋蔵文化財センター年報 平成28年度 香川県埋蔵文化財センター 2018
10. 調査にあたっては次の方々、関係機関に協力いただいた。記して謝意を表したい。(順不同、敬称略)  
香川県埋蔵文化財センター、大久保徹也 蔡本晋司 渡邊誠 松浦鶴昌 丸本啓貴

## 目 次

|                 |    |
|-----------------|----|
| 第1章 調査に至る経緯と経過  | 1  |
| 第2章 遺跡の地理的歴史的環境 | 2  |
| 第3章 盛土山古墳       |    |
| 第1節 概要          | 5  |
| 第2節 遺物          | 6  |
| 第3節 まとめ         | 13 |
| 第4章 宿地古墳        |    |
| 第1節 概要          | 14 |
| 第2節 石室          | 15 |
| 第3節 遺物・その他      | 18 |
| 第4節 まとめ         | 19 |

## 挿 図 写 真 目 次

|                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| 第1図 遺跡位置図                             | 1  |
| 第2図 遺跡位置図2                            | 2  |
| 第3図 周辺遺跡位置図                           | 4  |
| 第4図 盛土山古墳墳丘測量図（1/600）                 | 5  |
| 第5図 盛土山古墳出土遺物及び採集資料①（1/3）             | 6  |
| 第6図 盛土山古墳出土遺物及び採集資料②（1/3）             | 8  |
| 第7図 盛土山古墳出土遺物及び採集資料③（1/3）             | 9  |
| 第8図 盛土山古墳出土遺物及び採集資料④（1/3）             | 10 |
| 第9図 形象埴輪模式図各部名称 蓋形埴輪（上）鞍形埴輪（下）        | 11 |
| 第10図 盛土山古墳墳丘外出土遺物及び採集資料（1/3）          | 12 |
| 第11図 宿地古墳墳丘測量図（1/150）                 | 14 |
| 第12図 宿地古墳横穴式石室トレス図（1/100）             | 16 |
| 第13図 宿地古墳横穴式石室レーザー測量画像（1/100）         | 17 |
| 第14図 宿地古墳出土遺物（1/3）                    | 18 |
| 写真1～3 中世～近世にかけての石造物の部品 元治元年の金毘羅燈籠 石灯籠 | 18 |

## 表 目 次

|               |    |
|---------------|----|
| 表1 周辺遺跡一覧     | 4  |
| 表2 盛土山古墳遺物観察表 | 20 |
| 表3 宿地古墳遺物観察表  | 22 |

## 写 真 図 版 目 次

|                |                               |
|----------------|-------------------------------|
| 盛土山古墳          | 宿地古墳                          |
| 図版1 円筒埴輪       | 図版3 墳丘・石室                     |
| 図版2 形象埴輪 その他遺物 | 図版4～7 三次元地上レーザー計測画像（墳丘・横穴式石室） |
|                | 図版8 採集遺物                      |

## 第1章 調査に至る経緯と経過

今回の調査は当町内の指定史跡 2 件「盛土山古墳（県指定）」「宿地古墳（町指定）」の既存の資料の確認、および測量調査を行い各史跡の内容確認を行い、それらの成果を本文中に収録した。



第1図 遺跡位置図

盛土山古墳に関しては平成 10 年度に行われた調査で出土した資料やその後の採集資料の中で、未掲載の令和 2 年 4 月～10 月までの間で、整理作業を行っている。

宿地古墳は令和 3 年 1 月 25 日から 1 月 28 日に期間中に、石室内流入土の一部除去と墳丘測量、墳丘の三次元レーダー測量を行った。

両者ともに多度津町教育委員会が調査主体となって多度津町教育委員会教育課文化財専門職員白木亨が実施した。なお宿地古墳石室の三次元レーダー測量は株式会社タカチ測建に委託して行った。なお調査・整理体制は以下のとおりである。

### 多度津町教育委員会教育課

|               |        |
|---------------|--------|
| 課長            | 竹田 光芳  |
| 社会教育係         |        |
| 係長            | 西山 英希  |
| 主任主事（文化財専門職員） | 白木 亨   |
| 主任主事          | 辻 健太   |
| 臨時職員          | 須田 美由紀 |
| 学校教育係         |        |
| 主任主事          | 中濱 拓人  |

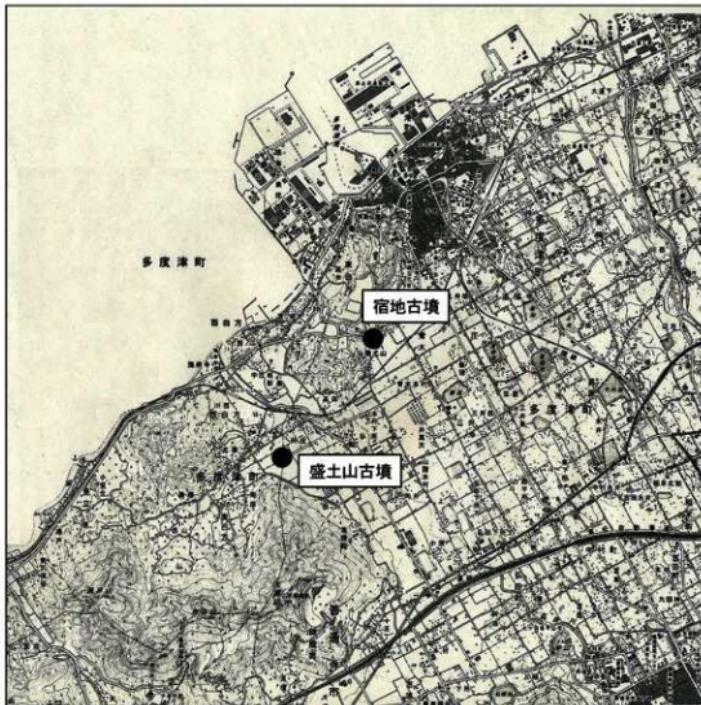
## 第2章 遺跡の地理的歴史的環境

多度津町は丸龜平野の北西部にあり、そこに広がる扇状地形の末端、湧泉部を中心とした沖積平野海岸部を中心とした場所に位置している。

今回の調査対象である2つの遺跡のうち、盛土山古墳は町域の西側の奥白方地区にあり、弘田川と天霧山に挟まれた平地部に位置している。また宿地古墳は町域北部の多度津山・向山・北山と連なる山塊のなかで北山からびる丘陵部に位置する。

今回調査した盛土山古墳と宿地古墳周辺の多度津町白方地区および四箇地区は、古くは白方地区的西白方瓦谷遺跡では縄文晩期の縄文土器を出土している。

弥生時代になると、庄八尺遺跡や笠屋遺跡など、弥生時代の終わりごろの土器を出土させる遺跡が現れる。おそらくは庄地区から南の三井地区までの間にある微高地上において弥生時代の集落が点在していたのではないかと考えられる。また白方地区の奥白方中落遺跡などで



第2図 遺跡位置図2

は弥生時代中期～後期の住居跡が確認されている。

古墳時代には白方地区で多くの古墳が造られ始めるが、特に古墳時代前期から中期にかけて古墳は四箇地区ではあまり造られていない。集落としては笠屋遺跡において集落の広がりが見られ、あくまでこの地域は古墳時代の段階では水田などの生産域として展開したのだろうと考えられる。古墳時代の後期になると、多度津山南麓部分に古墳が造られるようになる。その多くが円墳で、横穴式石室を持つ後期古墳が点在している。代表的なものは今回の調査対象である青木地区的宿地古墳がある。

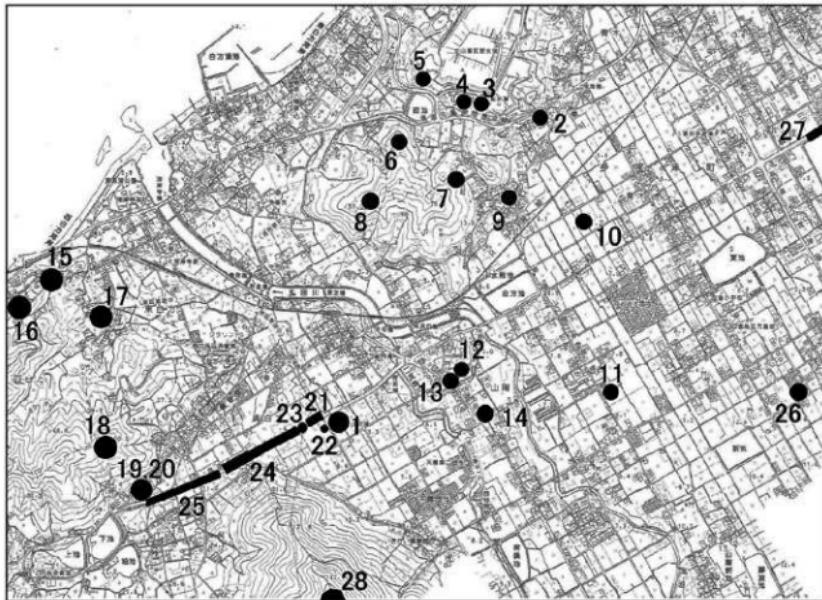
古代以降になると庄八尺遺跡や三井鶴取遺跡では溝状遺構が見られるようになり、平野の低位部において田園地帯が広がっていたと考えられる。古代後半頃になると道隆寺が建立され、堀江津が開かれることになるが、古代における住居、あるいは集落域の中心はまだ町域の西側にあり、町域の中心から東側にかけては、基本的には生産域として展開し、一部小規模な集落が展開していくようである。

中世段階には塚ではないかと考えられるものがいくつも展開していくが、西側の香川氏の諸城である天霧城が最盛期を迎える時代で、隣接する中東遺跡や奥白方南原遺跡など、中世集落の痕跡が見られるものもあり、中世の生活圏であったため天霧城北側に中世集落が点在していたと考えられる。それに合わせて香川氏が多度津山を居城としたため、多度津町における中心部が移動することにより、さらに四箇地区的集落域は集約され、旧村の配置の元となるものが出来上がっていくと考えられる。

近世以降は先述した中世集落がさらに集約していく、西讃府志によると青木村・莊村・三井村・山階村に分かれ、多度津藩域に含まれる形となり、近代にそれら4カ村が合併して四箇村となり、現代において多度津村、豊原村、白方村と合併して多度津町になり現在に至る。

#### 参考文献

- 「西白方瓦谷遺跡」『県道津丸龜詫問農浜線(多度津西工区)緊急地方道路整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』香川県教育委員会 2012  
「南鶴遺跡」『平成24年度多度津町内で実施した遺跡調査報告』多度津町教育委員会 2014  
「笠屋遺跡 多度津藩陣屋跡」『平成30年度から令和元年度に多度津町内で実施した遺跡調査報告』多度津町教育委員会 2020



第3図 周辺遺跡位置図

| 番号 | 遺跡名   | 遺跡の概要     |         | 番号 | 遺跡名     | 遺跡の概要                 |           |
|----|-------|-----------|---------|----|---------|-----------------------|-----------|
|    |       | 時代        | 形態・種別   |    |         | 時代                    | 形態・種別     |
| 1  | 盛土山古墳 | 古墳時代中期    | 古墳(円墳)  | 15 | 経納山古墳   | 古墳時代中期                | 古墳        |
| 2  | 宿地古墳  | 古墳時代後期    | 古墳(円墳)  | 16 | 御産盟山古墳  | 古墳時代前期                | 古墳(前方後円墳) |
| 3  | 来付1号墳 | 古墳時代      | 古墳      | 17 | 西白方瓦谷遺跡 | 旧石器・縄文・弥生・古墳・7世紀・奈良時代 | 集落        |
| 4  | 来付2号墳 | 古墳時代      | 古墳      | 18 | 黒藤山4号墳  | 古墳時代前期                | 古墳(前方後円墳) |
| 5  | 向山1号墳 | 古墳時代後期    | 古墳      | 19 | 北ノ前古墳   | 古墳時代後期                | 古墳        |
| 6  | 鳥打古墳  | 古墳時代      | 古墳      | 20 | 北の前2号墳  | 古墳時代後期                | 古墳        |
| 7  | 徳公塚古墳 | 古墳時代中期    | 古墳      | 21 | 中東遺跡    | 弥生・古墳・奈良・平安・鎌倉        | 集落        |
| 8  | 西谷古墳  | 古墳時代      | 古墳      | 22 | 奥白方片山遺跡 | 古墳時代後期                | 包蔵地(旧河道)  |
| 9  | 公徳寺跡  | 中世        | 寺院      | 23 | 中東2号墳   | 古墳時代中期                | 古墳        |
| 10 | 田中大明神 | 中世        | その他     | 24 | 奥白方南原遺跡 | 弥生・中世                 | 集落        |
| 11 | 泉屋敷跡  | 中世        | 城館      | 25 | 奥白方中落遺跡 | 弥生・古墳・中世              | 集落        |
| 12 | 薬師堂跡  | 中世        | 寺院      | 26 | 三井鴨取遺跡  | 古代～中世                 | 集落        |
| 13 | 舟岡山遺跡 | 弥生時代中期～後期 | 包蔵地(集落) | 27 | 庄八尺遺跡   | 弥生・古墳・古代・中世・近世        | 集落        |
| 14 | 桑木古墳  | 古墳時代      | 古墳      | 28 | 天露城跡    | 中世                    | 山城        |

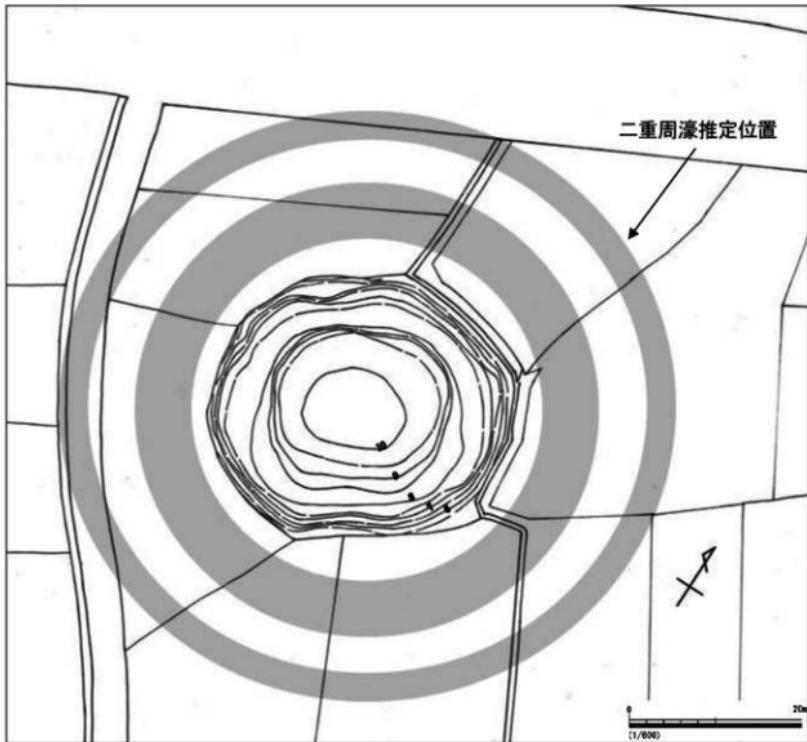
表1 周辺遺跡一覧

## 第3章 盛土山古墳

### 第1節 概要

丸龜平野西端部の天霧山麓近くにある仲多度郡多度津町奥白方に造られた古墳時代中期、5世紀末頃の古墳(円墳)である。

墳丘規模は現況で墳丘直径約40m、二重周溝を含む最大範囲は約75mあり、香川県内で平野部に造られた最大級の円墳である。墳丘構造は二段築成。埋葬施設は箱式石棺ではないかと考えられる。過去の記録では円筒埴輪・形象埴輪(蓋形、器財)・鉄製品(鉄刀、鉄鎌)・須恵器・銅鏡・銅鈴・管玉・勾玉・トンボ玉などを出土している。中でも大正4年に出土した勾玉は長さ6.7cmの日本最大級のものとされている。またトンボ玉はいわゆるモザイク玉と呼ばれるタイプで、ペルシャなどからの輸入品であると考えられる。同様のものは仲多度郡まんのう町にある安造田東3号墳からも出土しており、これらはこの地域の有力者が独自に海外との交流を持っていたこと、あるいは海外との交流を持って



第4図 盛土山古墳墳丘測量図 (1/600)

いた畿内勢力との強力な関係性がうかがえる資料である。

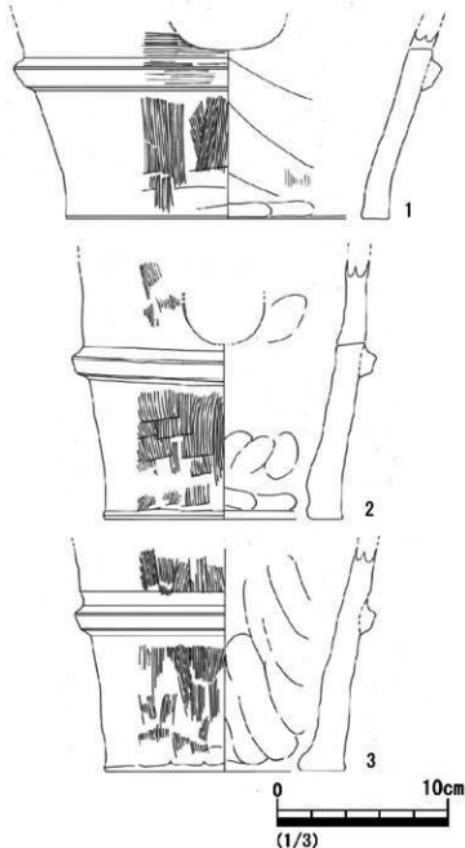
盛土山古墳は白方地区を流れる弘田川沿いにある。この地区には多くの古墳が点在しているが、中でも前期古墳である御塙山古墳は瀬戸内海を行き来する人々に目に留まるように造られていたと考えられるが、盛土山古墳は、弘田川近くに造られており、川を利用する人々、たとえば北部九州や畿内等と交易を行っていた上流部の善通寺市付近の勢力などを意識しているのではないかと考えられる。それを証する理由の一つとして、現在河口は1km程度北に所在するが、かつては盛土山古墳付近に所在したと考えられ、河口の所在したであろう港等の存在に深く関与した勢力があったと考えられるからである。そのため盛土山古墳はそこを管理する勢力及び被葬者の威容を示すために築造された古墳ではないかと考えられる。

今回実測した埴輪は平成10年度調査報告において墳頂部及び周濠にかかるトレンチから出土したもの及び採集資料の中で図化に耐えうるものを再整理、検討を行った。その結果をもとに、盛土山古墳で判明したことをまとめたい。

## 第2節 遺物

今回整理した遺物の多くは、墳丘外の包含層から出土したものが多く、おそらくは墳頂部より流出したものがほとんどである。平成10年度の調査においては主胴部に関しては正確に確認できていないため、埋葬状況や埋葬施設の状況は分かっていない。しかし一部鉄製品や石製品に関しては墳頂部より出土しているため、それらはおそらく副葬品とみなしてよいものではないかと考えている。埴輪に関しては外表施設として樹立していた元位置から出土したであろうものは今回の資料の中には1点も確認されていない。しかし今回出土資料を確認することによって、特に円筒埴輪についてはどのようなものがあるのか等の検討をしてみたい。

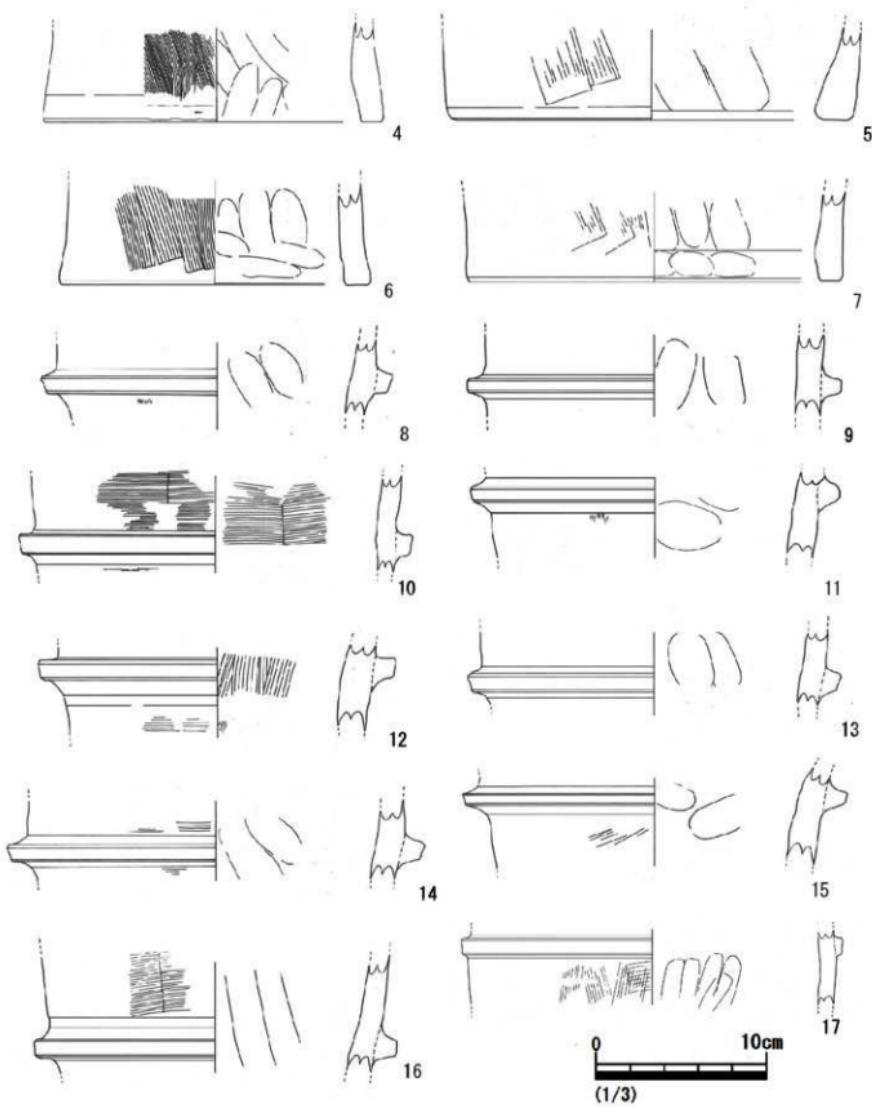
全体的に焼成は無黒斑の土師質焼成で比較的良好なものが多く、色調は橙色系が多いが、一部褐色系、黄色系などが混ざ



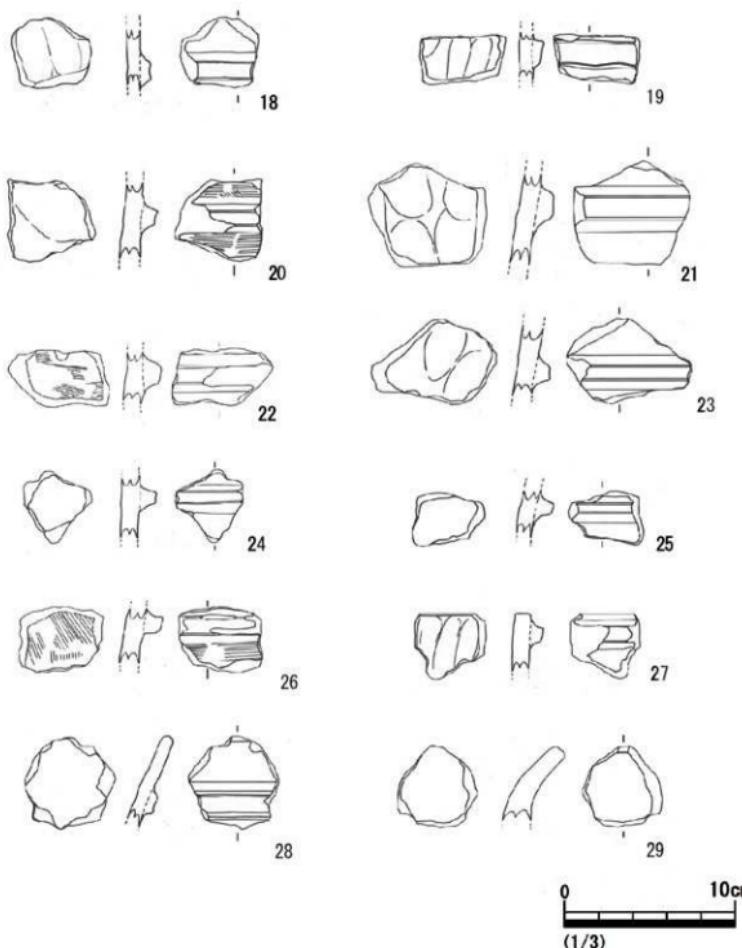
第5図 盛土山古墳出土遺物及び採集資料①(1/3)

る。胎土はいずれも1~2 mm台の長石を含み、また部位によって未確認になっている個体もあると考えられるが僅かに1~5 mm台の石英を含むものがある。確認できるものの中では口径は不明だが、胴部の突帯部の径は20.0~24.4 cm、底径は14.0~23.0 cmに復元される。すべてが盛土山古墳に由来する中期の円筒埴輪である。

最初に出土及び採集した円筒埴輪から見ていくと、1~3は表探資料（墳丘横の畑を掘り返した際に出土したもの）であるが、今回紹介する円筒埴輪の中でも残存状況が比較的良好なものである。それぞれ底部から、一段目の突帯およびその上部の胴部の一部まで確認できる。1に関しては底部からの立ち上がりが大きく外傾している。上部構造は残存状況から確認できないが、底部を除いて一段目の突帯から上部は緩やかに外傾した形状であった可能性が高い。突帯の断面形は矩形で、底部の外面調整は一次タテハケ、二次調整として底部形成に強くナデつけをしている。突帯上部の胴部は二次調整にB種ヨコハケがみられる。また内面調整は一部タテハケの痕跡が見られるが全体的には強くナデつけている。透孔は円形透かしの痕跡がみられる。また2と3の底部径がやや小型のもので、突帯は矩形、外面調整は一次タテハケ、二次ナデで、内面調整は一次ナデ、二次指オサエ。2については円形透かしも確認できる。4~7は底部で、4・6・7は二重周濠内側の周濠内の埋土出土のものである。4はやや内傾する形状で、外面調整にタテハケを有し、底部端に横にケズリを入れている。内面調整はナデのみである。5・6・7は外面調整にナナメハケを有し、内面調整はナデのみである。5・7ともに立ち上がりがやや外傾している。8~27は胴部である。特に径の図上復元が可能だったのは8~17である。9~17はほぼ地面とほぼ垂直に立ち上がっているが、それ以外はやや外傾する。特に8・14・15・16は比較的やや強めに外傾する。焼成がやや不良な土師質のものが多く、調整部分が不鮮明なのが多くみられた。8は矩形の突帯を境界に下部の胴部がやや強めに外傾する形状を呈している。若干ではあるが外部調整の一次タテハケが確認できる。9も調整部分は不鮮明ではあるが、突帯の形状は比較的きれいな台形状を呈している。10に関しては焼成も良好であり摩耗も比較的少なかったため、外面調整にBc種ヨコハケが確認できる。また突帯を張り付けるために強めにナデつけた痕跡も断面上から確認できた。11は突帯の形状がやや不整形な丸みを帯びた矩形である。12は矩形の突帯上部貼り付け面に強めのナデつけをしており、外面調整にヨコハケの痕跡が見られる。内面調整はナナメハケとナデである。13はやや強めに突帯上面をナデつけた痕跡のある矩形の突帯を有する。外面調整は摩耗が激しいため確認できないが、内面調整はナデである。14は矩形突帯に外面調整は一次ヨコハケ、二次ナデ、内面調整はナデである。先に14はやや強めに外傾していると述べたが突帯の上部でやや直上に持ち直す傾向がある。15は矩形の突帯で、外面調整はほぼヨコハケと言えるほど倒れ込んだナナメハケを有する。内面調整はナデである。16は矩形の突帯に、外面調整は一次Bc種ヨコハケ、二次ナデ、内面調整はナデである。17は突帯形状が幅の薄い矩形である。外面調整は一次ナナメハケ、二次ヨコハケである。内面調整はナデである。この17だけはほかの反転復元可能であったものと比べても種々の特徴から明らかにその形状は異なっている。18~26は小片であるため、胴部の復元是不可能であったが、比較的突帯形状や調整の確認できるものを図化した。18はM字形の突帯、19は幅の薄い矩形の突帯であり、18・19ともに比較的器壁が薄い個体である。20は矩形の突帯で、外面調整は一次ナナメハケ、二次B種（おそらくBc）ヨコハケ、内面調整はナデである。21は矩形突帯、内外面とも調整はナデのみ確認できる。22は矩形突帯で外面調整はナデのみ確認できたが、内面調整はヨコハケとナデを有している。23は台形突帯を有している。24・25は矩形突帯、調整は摩耗に寄り内外共に不明で



第6図 盛土山古墳出土遺物及び採集資料 ② (1/3)

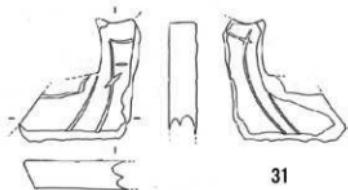


第7図 盛土山古墳出土遺物及び採集資料 ③ (1/3)

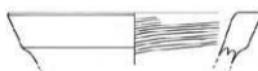
ある。26は不整形な矩形の突帶で外側調整はヨコハケ、内側調整はナナメハケを有する。27は矩形突帶、突帶より上段に透孔の一部が確認できる。ただし小片であるため透孔の形状は不明である。調整は内面のナデのみ確認できる。28・29は口縁部である。28は外傾するが反りのない形状をしている。最上段の突帶が残っており、その形状はM字形である。また器壁は比較的薄い。29は外反する形状の口縁部である。



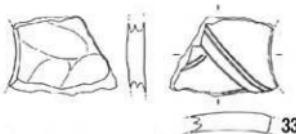
30



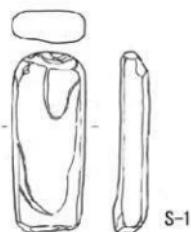
31



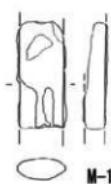
32



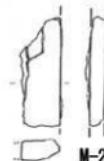
33



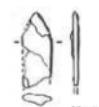
S-1



M-1



M-2



M-3



第8図 盛土山古墳出土遺物及び採集資料④(1/3)

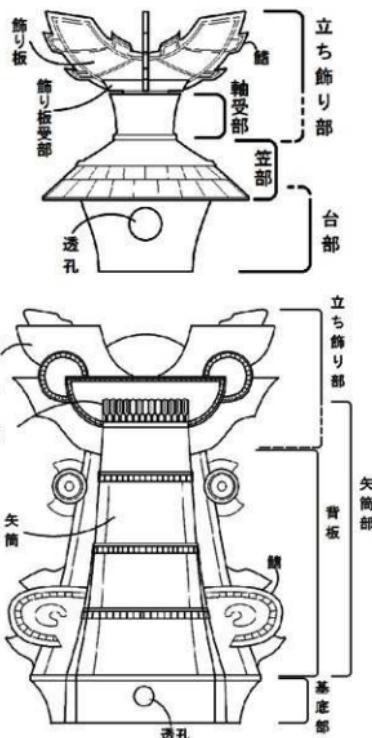
円筒埴輪以外の埴輪については確認できるだけで4点出土している。いずれも元位置ではなく墳丘周辺の包含層出土の為、30は壺形埴輪の底部と考えられる。底部形状は平底で、調整は内部のナデ以外は風化が激しいため不明である。31~33は平成10年度調査報告にも掲載されたものだが、再実測の上、再掲する。31と32は蓋形埴輪（第8図）とされており、31は飾板部の一部で、装飾部の線刻が確認できる。32は飾り板受部にあたるとされている。内面調整にB種ヨコハケが見られる。33は器財形埴輪とされている。小片であるため器財でもどのような形、どの部分にあたるかの判断は難しかったため、平成10年調査報告でも器財とだけ表記されている。今回は若干検討したいので観察してみると、直弧文状の線刻が確認され、板状の構造から、推定するならば鞍形埴輪の矢筒部に張り付く背板の鰐の一部ではないかと考えられる（第8図）。

石製品に関してはS-1の一点のみで器種は不明であるが、側面に摩滅加工した痕跡と、敲打痕が見られる。

鉄製品は3点、M-1とM-2は鉄刀の一部、M-3は鉄鎌と考えられる。いずれも墳頂部から出土しており、埋葬施設は確認されていないが、おそらくは副葬品が流出したものではないかと考えられる。

34~38は土師器である。34・35は杯の底部、35は回転ヘラ切りの痕跡が見られる。36は椀の高台付の底部である。37は焰縁の口縁部、38は小皿の底部である。これらは古墳由来のものではなく、13世紀以降の土師器である。中世段階には香川氏の詰城、天霧城が隣接しており、隣接する中東遺跡や奥白方南原遺跡など、中世集落の痕跡が見られるものもあり、中世の生活圏であったためこれらの遺物が出土していると考えられる。

39と40は須恵器。39は壺の底部で、40は注口付鉢の注口部分である。いずれも6世紀以降の所産であると考えられる。なお今回は小片ばかりで図化に耐えうるものではなかったが、39・40以外にも数点須恵器が出土している。これらについて盛土山古墳の西側に隣接する奥白方片山遺跡の旧河道内から多くの須恵器が出土していることなどから、旧河道沿いの後期古墳、現状では地元の人々からの伝聞情報であるため現認されていないが、近隣の天霧山東麓付近に箱式石棺や古墳があったとされており、それらからの流入があったと考えられる。盛土山古墳出土の須恵器においてもそれら旧河道



第9図 形象埴輪模式図各部名称

蓋形埴輪（上）鞍形埴輪（下）



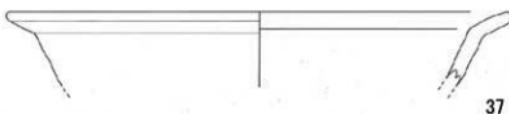
34



35



36



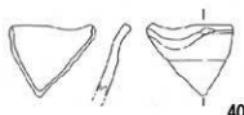
37



38



39



40



41



42



第10図 盛土山古墳填丘外出土遺物及び探集資料 (1/3)

上流部からの流入品であると考えられる。実際に現状では墳頂部から出土したものは確認されていない。

41 と 42 はいずれも瓦器碗である。摩耗が激しいが中世和泉式瓦器碗であると考えられる。これも前述した中世土師器の頃と同じく香川氏が多度津に入ってきたころの所産ではないかと考えられる。

### 第3節　まとめ

以上のように盛土山古墳の遺物を観察していったが、今回の資料観察によって、本古墳の埴輪、特に円筒埴輪の傾向について検討してみた。

まず円筒埴輪の立ち上がりについては外傾するものがほとんどで、一部底部周辺が内傾するものがあった。また突帯の形状に関しては基本的には矩形のものがベースとなるが、一部台形状のものと M 字形のものが混ざる。そして胴部径が直径 15 cm 前後のものと直径 20 cm 前後の 2 種に分けることができる。口縁部は 2 点のみの確認である外傾するが反りのない形状が外反するものの 2 種が確認されている。調整に関しては、外面調整が胴部周辺はヨコハケ、特に Bc 種が多くみられ、一次調整としてタテハケ、ナナメハケを有するものもある。底部はナナメハケとなる。そして部位に関わらず全体的にナデつけている。内面調整は一部 Bc 種ヨコハケやナナメハケが見られるが、ナデがほとんどである。透孔については形状の確認できるものは円形透かしのみである。

以上のことから盛土山古墳の円筒埴輪の基本形は「底部からやや外傾して立ち上がり、矩形の突帯をもち、外部調整は胴部に関しては一次二次に関わらず B 種ヨコハケ（Bc が多い）、内面調整はナデである。透かし孔に関しては円形透かしを有し、器壁の厚さは 2.0 cm 程度、焼成は無黒斑で、橙色系の色調のもの」という特徴を挙げることができる。ただし B 種ヨコハケに関しては、小片が多いため、静止痕の単位などは不明瞭である。つまり盛土山古墳の円筒埴輪は古墳時代中期、その中でも後半段階のものが多くを占めるのではないかと考えられる。

## 第4章 宿地古墳

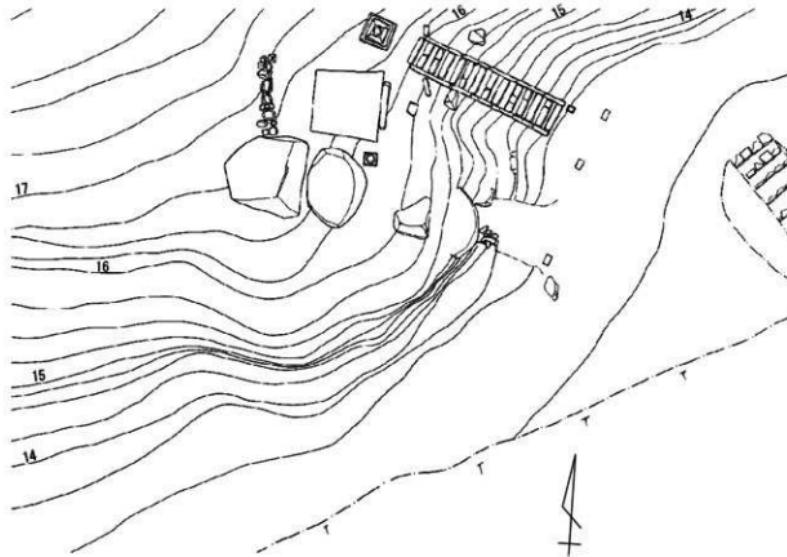
### 第1節 概要

多度津山（桃山・向山・北山の山塊を合わせた総称。以下多度津山と呼ぶ。）の南東部に延びる丘陵部に造られた古墳である。墳丘の形状は円墳であり、横穴式石室を埋葬施設としている。以前から古墳時代後期以降になって多度津山周辺に点在する群集墳のひとつと考えられていた。

小字名「宿地（しゅくち）」が古墳の名称となっている。この名称は神功皇后が三韓征伐の帰路で立ち寄った場所であるという伝説が基になっている。西讃府志にも「是ヨリ宿地ト云處ニ移リ玉フ、其處ニ宿地玉フ。因テ宿地トヨベリト云」とある。現在は墳丘上に明治30年に再建された社殿「宿地神社」が鎮座している。

この古墳は昭和43年に町指定史跡になっている。しかし、史跡に指定するにあたっての、測量図などではなく、埋葬施設が横穴式石室で、その残存状況が比較的良好であるということ以外は、その内容は明らかになっていない。そのため今回現状での墳丘測量（第11図）と三次元レーザー計測を行った。

その結果、墳丘の法量は現況では直径13.5m、残存高は露頭している天井石まで入れると3.95mを測る。



第11図 宿地古墳墳丘測量図 (1/150)

また墳頂部は石室の天井石を露頭しており、周辺の盛土は流出している。墳丘に関しては丘陵部の地形を利用しているため、地山を成形して上部が盛土となっていると考えられるが、今回は墳丘部にトレーナーはいっていないため、詳細は不明である。石室天井石が露頭していることから、それを覆った盛土の範囲を想定すると、本来の墳丘規模は、直径 20m 超はあったのではないかと考えられる。そのほか外表施設に関しては、現状では未確認で、墳丘周囲の周濠などの施設の有無も不明である。

## 第2節 石室

今回は石室の内容を正確に把握するために石室の三次元レーザー計測（第13図）を行った。

埋葬施設は両袖式の横穴式石室である。石室の主軸方向は東西で、開口方向はほぼ真東を向いている（第12図）。羨道については羨門部消失、さらに側壁の石材が抜き取られていた。羨道部の流入土を一部除去してみたところ、石材が抜け落ち、盛土の版築状の断面が覗いた。ここで抜き取られた石材は斜面の土圧によって、羨道が歪んだ際に落ち込んだのかもしれない。抜き取られた石材に関しては、少なくとも3石は宿地神社の施設の一部（石室開口部前と神社石段横）として利用している。また羨道部には元位置を保ってはいないが 10 cm台の閉塞石に利用した石材が一部残存している。玄室部分に関しては抜き取り、流出等ではなく、土圧によって左側壁の一部が崩れかけているがほぼ完存している。

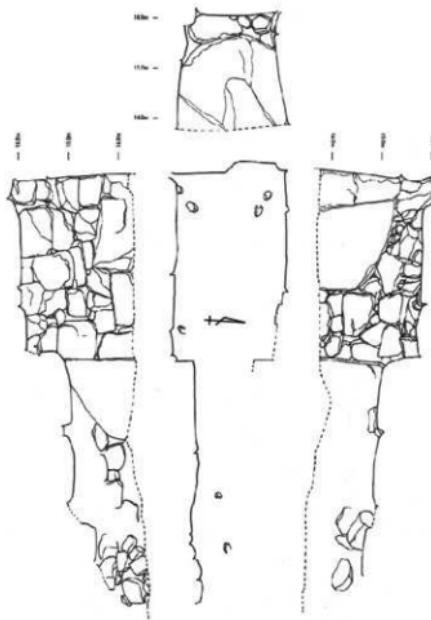
使用石材は花崗岩であり、同様の石材は古墳の所在している多度津山山塊の中に露頭しているところが何か所もあることから、現地採取の石材を使用していると考えられる。

石室の法量は残存長約 8.06m、石室の内法は、玄室の高さが 2.33m、長さが最大で 3.9m、幅は奥壁側 2.2m・中央部 2.23m・玄門部 2.12m、玄室面積は土圧によって左側壁部がゆがんでいる現状での面積は 10.9 m<sup>2</sup> である。また羨道の高さ 1.27m は、残存長 4.16m、羨道幅に関しては、埋没しているため全体は確認できないが、確認できる最大幅は羨道最奥部の玄門部で 1.22m を測るため、断面形がほぼ正方形の羨道であるといえる。

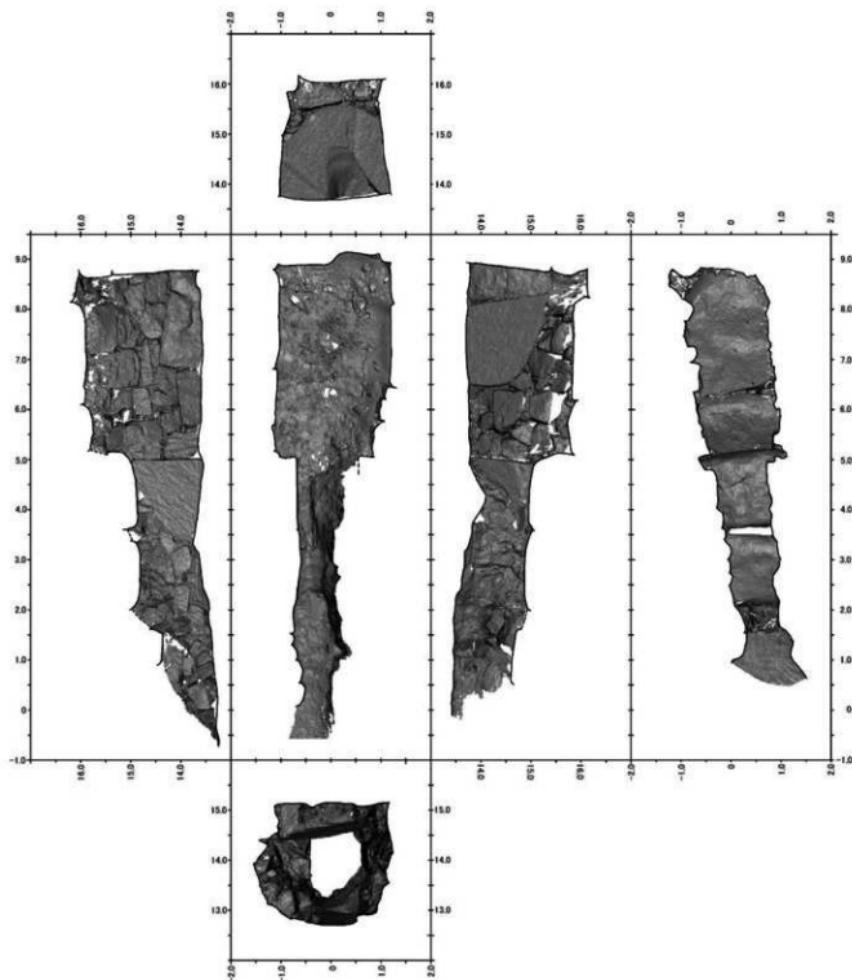
石室の構造は、奥壁は2段積みで、下段は少なくとも高さ 1.9m、幅 1.9m の鏡石である。上段は大きなものでは高さ 0.5m、幅 1.15m が 1 石あり、他は天井石との間を埋める程度の 0.3m 程度の石材を並べている。側壁については左右共に明確な目地が通っているものではなく、玄室左側壁は奥壁側の大型石材に沿う形で奥壁側が 2 段、羨道に向かって 4 段積みになる。奥壁側の石材については現状 3 石に見えるが、大型の石が土圧や天井石からの荷重によって 3 石に割れている。そのため元々の大きさは高さ 1.55m、幅 2.5m 以上の非常に大きな石材を使用している。また羨道側の側壁も下段から 2 段目までの石材も 0.5~0.8m 台の比較的大きく、サイズも比較的統一された石材を使用している。ただし羨道側の石材は土圧によって内部に倒れ込んでいるため、本来の玄室幅はもう少し広くなると考えられる。玄室右側壁は床面に接する直方体状の大型石材 2 石（高さ 0.72m、幅 1.9m の石材と、高さ 0.42m、幅 1.05m）から乱積みのような状況になっている。そのため上部の石材に関しては 0.3 ~1.0m の様々な大きさの石材を組み合わせて積み上げている。羨道左側壁は土圧によって崩れ、多くの石材が抜き取られ、埋没しているが、玄門部に少なくとも高さ 1.27m の大型の石材を置いている。そこから羨門に向けては 0.15~0.35m 台の裏込めの石材が少し露頭している。羨道右側壁も左側壁と

同様に玄門部に少なくとも高さ 1.36m、幅 1.76m の大型の石材を置いている。開口部に向けてはこれも土圧によって押し出された天井石が南側に倒れ込んでおり、現況ではかなり乱雑な積み方になっている。羨道開口部周辺の側壁石積は後世に積みなおされたと考えた方がよい。左右共に積み方等は不確かだが、少なくとも 2 段以上の石材が積まれており、0.3~0.55m 台の石材を使用している。天井石に関しては埋没している部分が多いため正確な法量は分からぬが、石室全体を通して石材が 5 石並び、玄室には奥壁側から縦 2.9m、横 2.7m の大型の石材と、縦 1.7m、横 2.3m の石材が並び、羨道側には玄室側から幅 1.5m、幅 1.63m、幅 1.1m の 3 石が並ぶ。玄室の天井の構造はレベルを揃えた平天井である。また東端の石材は土圧による左前面にずれ込んでいる。

羨道側壁に明確な玄門立柱は設置されず、袖部に大型の石材を置いて、玄室と羨道を区画化している。なおこの大型の石材は左右側壁双方に置かれしており、元々は同一の石材だったものを分割加工して、両サイドに並べ置いたように見える。柱状の石材を使用せず、明確な玄門立柱を構築していないことは大野原古墳群系統の巨石墳群とは性格を異にする。場合によって高松市の古宮古墳や丸亀市飯山の青の山 7 号墳のように四国北岸の対岸に展開する吉備系の横穴石室の要素を含んでいるようにも見える。また羨道側壁のうち左側壁は玄室に設置された大型の石材以外は抜き取られている。羨道右



第 12 図 宿地古墳横穴式石室トレース図 (1/100)

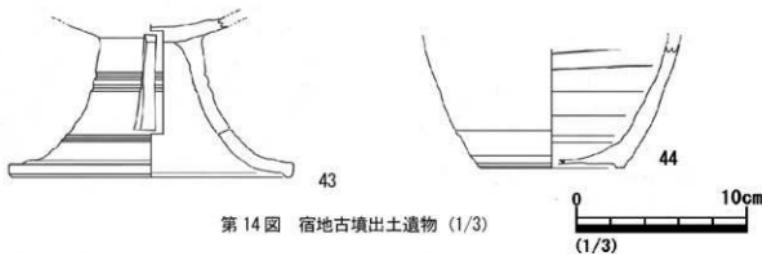


第13図 宿地古墳横穴式石室レーザー測量画像 (1/100)

側壁は玄室近くの大型の石材から0.8mまでは多少は土圧によって歪んでいるが、0.3m台の石材が積み上げているため、ほぼ元位置を保っている。それより開口部側に向かっては一見石材が積まれてはいるものの、積み上げ方が相当乱れており、土圧によって一旦崩れたものを後世に積みなおしていると考えられる。また羨道部の石材の多くが埋没あるいは抜き取られており、図化できていない。周辺住民からの聞き取りにより、昭和中期頃まで、古墳の開口部にドアが設置されていたそうで、羨道の開口部周辺はかなりの改変が加えられているようである。また羨道床面には元位置は保っていないと考えられるが、羨道中ほどの位置に20cm台の円縫があり、閉塞石の一部と考えられる。また非常に硬く固められた花崗土が一部に被覆しており、閉塞土の痕跡も見られる。玄室床面に関しては掘削を行っていないので、全容は明らかではないが、一部露頭している石材を見てみると20cm程度の円縫を使用した礫床が敷かれていたようである。ただしそれぞれの石には高低差があり、盜掘やその他の改変によって玄室の礫床も元位置が保たれていないと考えられる。

### 第3節 遺物・その他

今回の調査は測量調査が主であるため、遺物は過去の採集資料である。注記によると1967年に採取されたものが、図化されずにいたため、それらを紹介する。43は長脚2段の高杯の脚部である。脚部に施文としてヘラ描沈線が見られ、方形の透孔が2カ所施されている。表面には焼成時の自然釉の付着が見られる。頭部が比較的太く、長脚2段としたが、かなり低脚化している。



第14図 宿地古墳出土遺物(1/3)



写真1 中世～近世にかけての石造物の部品



写真2 元治元年の金毘羅燈籠



写真3 石灯籠

おそらくはTK209併行期の所産であると考えられ、その中でも早い段階7世紀の第一四半期頃のものではないかと考えられる。44は壺で高台付きの体部から底部周辺部分である、上部構造が分からぬため、どのような壺の種類かは判断できない。特徴としては底部に焼成後穿孔が見られる。また調整はナデのみが確認でき、その他の調整は見られない。高台付であることなど、おそらくは43と同段階の所産でないかと考えられる。ただしこれらは出土位置が不詳のため、初葬時の副葬品か追葬時のものかは判断できない。その他石室内の副葬品に関しては先述した石室の床面の状況から、おそらく盗掘によってほとんど残ってはいないと考えられる。現状での遺物残存の可能性は、追葬によって挿き出された副葬品が、羨道の床面にあるのではと考えられ、今後の調査によって出土する可能性を提示するに留まる。

これらのお他に、墳丘外には中世以降の土師器片や墳丘上の宿地神社の関係で、近世(幕末中心)や近代以降の瓦が点在している。また宿地神社社殿周辺の宿地古墳墳丘上には、周辺から集められた中世から近世に造られた石造物が置かれている。社殿裏には中世から近世にかけての石造物の部品(写真1)が並べられており、社殿北側には元治元年造の金毘羅燈籠(写真2)、社殿南側には宝珠と中台と竿部のみになった石灯籠(写真3)が据え置かれている。なお石造物の部品と金毘羅燈籠の笠部と基壇、石灯籠の宝珠と中台には天霧石が使用されている。また社殿まで続く石段も天霧石である。これらは町内において中世から近世にかけて地元の天霧石を多用していることがうかがえる資料である。

## 第4節　まとめ

以上の結果から宿地古墳について検討すると、石室の形状、出土遺物から7世紀第一四半期に造られた古墳時代終末期の古墳である。また石室において巨大な石材を利用していることから巨石墳の一つであるといえる。さらに周辺巨石墳との関係性は時系列的には大野原古墳群の平塚古墳と角塚古墳の間の時期に築造されたと考えられる。

石室構造は玄室天井部の構造が平天井であるといったところから大野原古墳群系統の石室の影響を受けた古墳であるといえる。ただし先述したように、それのみに影響を受けたわけではない。県内の比較的例の少ないグループの古墳で、長期にわたっては展開しないものではあるが、高松市の鬼無にある古宮古墳、普通寺の大塚池1号墳、丸亀市飯山の青ノ山7号墳などは、長大な玄室を有し、両袖型石室だが羨道幅が広く、左右袖部の突出が比較的小さく、さらに玄門部に明確な立柱を据えないとといった特徴がある。宿地古墳の石室構造も、特に玄門部の構造で明確な玄門部立柱を構築しないといった同様の特徴を有している。これらの石室の形状は瀬戸内海を挟んで対岸地域のこうもり塚古墳や箭田大塚古墳など吉備系の石室構造の影響も受けているのではないかと考えられている。宿地古墳は丸亀平野内陸部の集落遺跡が海を通じた交易をするための玄関口であった弘川川の河口部に近くに立地しており、他地域の情報が比較的入ってきやすい地域であった。そのような立地条件から、対岸の吉備地域の影響を直に受けていた可能性も考えられるのである。

つまり宿地古墳は古墳時代終末期段階に丸亀平野まで波及してくる大野原古墳群系統の要素も取り込みながら、一方では、海を通して波及してくる吉備系などの要素も取り込むといった港町として地域が展開していく多度津の地域性を象徴する古墳の一つといえるのである。

表 2-1 遺物観察表(盛土山古墳)

| 遺物<br>番号 | 遺物名<br>記載<br>箇所 | 写真<br>器種 | 寸法<br>mm | 法面(cm)                     |                | 断面              | 色調              | 状況              | 調査   |              | 施文 | 特殊状況         | 備考  |
|----------|-----------------|----------|----------|----------------------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|------|--------------|----|--------------|-----|
|          |                 |          |          | 高さ                         | 幅              |                 |                 |                 | 外面   | 内面           |    |              |     |
| 1        | 素朴資料 ○ 内側埴輪     | 11.2     | 19.0     | 素石 1~2cm厚 壁面<br>石瓦 2cm厚 壁面 | 7.5/16/6<br>良好 | 5/16/7/3<br>良好  | 5/16/7/3<br>良好  | 5/16/7/3<br>良好  | タテハナ | タテハナ+ナ<br>ナ子 | ナ子 | 内側埴輪<br>内側埴輪 | 1/4 |
| 2        | 素朴資料 ○ 内側埴輪     | 15.2     | 14.0     | 素石 1~2cm厚 壁面<br>石瓦 2cm厚 壁面 | 5/16/6<br>良好   | 5/16/7/3<br>良好  | 5/16/7/3<br>良好  | 5/16/7/3<br>良好  | タテハナ | タテハナ+ナ<br>ナ子 | ナ子 | 内側埴輪<br>内側埴輪 | 1/4 |
| 3        | 素朴資料 ○ 内側埴輪     | 13.1     | 14.2     | 素石 1~2cm厚 壁面<br>石瓦 2cm厚 壁面 | 5/16/6<br>良好   | 5/16/7/3<br>良好  | 5/16/7/3<br>良好  | 5/16/7/3<br>良好  | タテハナ | ナ子           | ナ子 | 内側埴輪<br>内側埴輪 | 1/4 |
| 4        | 周溝内 ○ 内側埴輪      | 6.7      | 19.8     | 素石 1~2cm厚 壁面<br>石瓦 2cm厚 壁面 | 7.5/16/6<br>良好 | 5/16/7/3<br>良好  | 5/16/7/3<br>良好  | 5/16/7/3<br>良好  | タテハナ | ナ子           | ナ子 | 内側埴輪<br>内側埴輪 | 1/4 |
| 5        | 包食器             | 5.3      | 23.0     | 素石 1~2cm厚 壁面<br>石瓦 2cm厚 壁面 | 10/16/6<br>良好  | 10/16/7/3<br>良好 | 10/16/7/3<br>良好 | 10/16/7/3<br>良好 | タテハナ | ナ子           | ナ子 | 内側埴輪<br>内側埴輪 | 1/4 |
| 6        | 周溝内             | 5.9      | 18.0     | 素石 1~2cm厚 壁面<br>石瓦 2cm厚 壁面 | 5/16/6<br>良好   | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | タテハナ | ナ子           | ナ子 | 内側埴輪<br>内側埴輪 | 1/4 |
| 7        | 周溝内 ○ 内側埴輪      | 5.2      | 21.8     | 素石 1~2cm厚 壁面<br>石瓦 2cm厚 壁面 | 2.5/16/6<br>良好 | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | タテハナ | ナ子           | ナ子 | 内側埴輪<br>内側埴輪 | 1/4 |
| 8        | 包食器             | 2.0      | 20.0     | 素石 1~2cm厚 壁面<br>石瓦 2cm厚 壁面 | 5/16/6<br>良好   | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | タテハナ | ナ子           | ナ子 | 内側埴輪<br>内側埴輪 | 1/4 |
| 9        | 包食器             | 2.0      | 2.0      | 素石 1~2cm厚 壁面<br>石瓦 2cm厚 壁面 | 5/16/6<br>良好   | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | タテハナ | ナ子           | ナ子 | 内側埴輪<br>内側埴輪 | 1/4 |
| 10       | 周溝内 ○ 内側埴輪      | 2.0      | 2.0      | 素石 1~2cm厚 壁面<br>石瓦 2cm厚 壁面 | 5/16/6<br>良好   | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | タテハナ | ナ子           | ナ子 | 内側埴輪<br>内側埴輪 | 1/4 |
| 11       | 包食器             | 2.1.6    | 2.1.6    | 素石 1~2cm厚 壁面<br>石瓦 2cm厚 壁面 | 5/16/6<br>良好   | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | タテハナ | ナ子           | ナ子 | 内側埴輪<br>内側埴輪 | 1/4 |
| 12       | 周溝内             | 2.0      | 20.8     | 素石 1~2cm厚 壁面<br>石瓦 2cm厚 壁面 | 5/16/6<br>良好   | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | タテハナ | ナ子           | ナ子 | 内側埴輪<br>内側埴輪 | 1/4 |
| 13       | 包食器             | 2.1.8    | 21.8     | 素石 1~2cm厚 壁面<br>石瓦 2cm厚 壁面 | 5/16/6<br>良好   | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | タテハナ | ナ子           | ナ子 | 内側埴輪<br>内側埴輪 | 1/4 |
| 14       | 包食器             | 2.4.4    | 2.4.4    | 素石 1~2cm厚 壁面<br>石瓦 2cm厚 壁面 | 2.5/16/6<br>良好 | 2.5/16/6<br>良好  | 2.5/16/6<br>良好  | 2.5/16/6<br>良好  | タテハナ | ナ子           | ナ子 | 内側埴輪<br>内側埴輪 | 1/4 |
| 15       | 包食器             | 2.2.4    | 22.4     | 素石 1~2cm厚 壁面<br>石瓦 2cm厚 壁面 | 7.5/16/6<br>良好 | 7.5/16/6<br>良好  | 7.5/16/6<br>良好  | 7.5/16/6<br>良好  | タテハナ | ナ子           | ナ子 | 内側埴輪<br>内側埴輪 | 1/4 |
| 16       | 包食器             | 2.1.2    | 21.2     | 素石 1~2cm厚 壁面<br>石瓦 2cm厚 壁面 | 5/16/6<br>良好   | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | タテハナ | ナ子           | ナ子 | 内側埴輪<br>内側埴輪 | 1/4 |
| 17       | 包食器 ○ 内側埴輪      | 2.2.2    | 22.2     | 素石 1~2cm厚 壁面<br>石瓦 2cm厚 壁面 | 5/16/6<br>良好   | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | タテハナ | ナ子           | ナ子 | 内側埴輪<br>内側埴輪 | 1/4 |
| 18       | 包食器             | 2.0      | 20.0     | 素石 1~2cm厚 壁面<br>石瓦 2cm厚 壁面 | 5/16/6<br>良好   | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | タテハナ | ナ子           | ナ子 | 内側埴輪<br>内側埴輪 | 1/4 |
| 19       | 包食器             | 2.1.2    | 21.2     | 素石 1~2cm厚 壁面<br>石瓦 2cm厚 壁面 | 5/16/6<br>良好   | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | タテハナ | ナ子           | ナ子 | 内側埴輪<br>内側埴輪 | 1/4 |
| 20       | 周溝内 ○ 内側埴輪      | 2.0      | 20.0     | 素石 1~2cm厚 壁面<br>石瓦 2cm厚 壁面 | 5/16/6<br>良好   | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | タテハナ | ナ子           | ナ子 | 内側埴輪<br>内側埴輪 | 1/4 |
| 21       | 包食器             | 2.0      | 20.0     | 素石 1~2cm厚 壁面<br>石瓦 2cm厚 壁面 | 5/16/6<br>良好   | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | 5/16/6<br>良好    | タテハナ | ナ子           | ナ子 | 内側埴輪<br>内側埴輪 | 1/4 |

| 編號<br>番号 | 油標名<br>器種   | 底質<br>底材 | 法面<br>法面( cm) | 胎土<br>胎土 | 外觀<br>外觀            | 色調<br>色調                 | 圓管                       |                         | 備考                     |               |
|----------|-------------|----------|---------------|----------|---------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------------|------------------------|---------------|
|          |             |          |               |          |                     |                          | 外面<br>(一次)               | 外面(二次)                  |                        |               |
| 22       | 包食器<br>○    | 內壁塗繪     |               |          | 底石 1~2mm 多量<br>褐色   | 7.5YR 7/ 6<br>底褐色<br>底褐色 | 7.5YR 8/ 6<br>底褐色<br>底褐色 | 良好<br>ナデ                | 八種ヨウハナ<br>子<br>胎<br>運片 |               |
| 23       | 包食器<br>○    | 內壁塗繪     |               |          | 底石 1~2mm 多量<br>明黃褐色 | 10YR 6/ 6<br>底褐色<br>底褐色  | 10YR 6/ 6<br>底褐色<br>底褐色  | 良好<br>ナデ                | 胎<br>運片                |               |
| 24       | 漏斗內<br>○    | 內壁塗繪     |               |          | 底石 1~2mm 多量<br>底褐色  | 10YR 6/ 4<br>底褐色<br>底褐色  | 10YR 6/ 2<br>底褐色<br>底褐色  | 良好<br>ナデ                | 胎<br>運片                |               |
| 25       | 包食器<br>○    | 內壁塗繪     |               |          | 底石 1~2mm 多量<br>深褐色  | 2.5YR 7/ 3<br>底褐色<br>底褐色 | 10YR 6/ 2<br>底褐色<br>底褐色  | 中<br>ナデ                 | 胎<br>運片                |               |
| 26       | 包食器<br>○    | 內壁塗繪     |               |          | 底石 1~2mm 多量<br>褐色   | 7.5YR 7/ 6<br>底褐色<br>底褐色 | 7.5YR 7/ 6<br>底褐色<br>底褐色 | 良好<br>ナデ                | 胎<br>運片                |               |
| 27       | 包食器<br>○    | 內壁塗繪     |               |          | 底石 1~2mm 多量<br>褐色   | 5YR 6/ 6<br>底褐色<br>底褐色   | 5YR 6/ 6<br>底褐色<br>底褐色   | 良好<br>ナデ                | 胎<br>運片                |               |
| 28       | 包食器<br>○    | 內壁塗繪     |               |          | 底石 1~2mm 多量<br>明黃褐色 | 7.5YR 6/ 4<br>底褐色<br>底褐色 | 7.5YR 6/ 4<br>底褐色<br>底褐色 | 良好<br>ナデ                | 口絞<br>運片               |               |
| 29       | 包食器<br>○    | 內壁塗繪     |               |          | 底石 1~2mm 多量<br>褐色   | 5YR 6/ 6<br>底褐色<br>底褐色   | 5YR 6/ 6<br>底褐色<br>底褐色   | 良好<br>ナデ                | 口絞<br>運片               |               |
| 30       | 包食器<br>○    | 漆粉塗繪     | 2.0           | 4.2      | 底石 1~2mm 多量<br>底褐色  | 10YR 6/ 4<br>底褐色<br>底褐色  | 10YR 6/ 3<br>底褐色<br>底褐色  | 良好<br>ナデ                | 底色<br>の少<br>胎<br>運片    |               |
| 31       | 包食器<br>○    | 漆粉塗繪     |               |          | 底石 1~2mm 多量<br>底褐色  | 10YR 6/ 6<br>底褐色<br>底褐色  | -<br>底褐色                 | -                       | 底色<br>の少<br>胎<br>運片    |               |
| 32       | 包食器<br>○    | 漆粉塗繪     | 1.4           |          | 底石 1~2mm 多量<br>底褐色  | 10YR 6/ 4<br>底褐色<br>底褐色  | 10YR 6/ 3<br>底褐色<br>底褐色  | 良好<br>ナデ                | 口絞<br>胎<br>運片          |               |
| 33       | 包食器<br>○    | 漆粉塗繪     |               |          | 底石 1~2mm 多量<br>底褐色  | 7.5YR 7/ 6<br>底褐色<br>底褐色 | 5YR 6/ 6<br>底褐色<br>底褐色   | 良好<br>ナデ                | 内胎<br>内胎<br>胎<br>運片    |               |
| 34       | 包食器<br>秆    |          | 1.3           | 10.5     |                     | 5YR 6/ 4<br>漆粉           | 10YR 6/ 2<br>底褐色<br>底褐色  | 10YR 6/ 3<br>底褐色<br>底褐色 | 良好<br>ナデ               | 口絞<br>胎<br>運片 |
| 35       | 包食器<br>秆    |          | 0.8           | 6.8      | 底石 1~2mm 多量<br>底褐色  | 7.5YR 6/ 4<br>底褐色<br>底褐色 | 10YR 6/ 3<br>底褐色<br>底褐色  | 良好<br>ナデ                | 口絞<br>胎<br>運片          |               |
| 36       | 包食器<br>秆    |          | 1.3           | 7.4      |                     | 7.5YR 6/ 4<br>底褐色<br>底褐色 | 10YR 6/ 3<br>底褐色<br>底褐色  | 良好<br>ナデ                | 口絞<br>胎<br>運片          |               |
| 37       | 包食器<br>秆    |          | 4.4           | 29.9     | 底石 1~2mm 多量<br>底褐色  | 5YR 6/ 2<br>底褐色<br>底褐色   | 10YR 6/ 1<br>底褐色<br>底褐色  | 良好<br>ナデ                | 口絞<br>胎<br>運片          |               |
| 38       | 包食器<br>小皿   |          | 1.3           | 9.1      | 7.5                 |                          | 10YR 6/ 4<br>底褐色<br>底褐色  | 10YR 6/ 4<br>底褐色<br>底褐色 | 良好<br>ナデ               | 口絞<br>胎<br>運片 |
| 39       | 包食器<br>○    | 漆粉<br>茎  | 2.0           | 11.0     | 底石 1~2mm 多量<br>底褐色  | NH<br>底褐色<br>底褐色         | NH<br>底褐色<br>底褐色         | 良好<br>ナデ                | 口絞<br>胎<br>運片          |               |
| 40       | 包食器<br>口口竹林 |          |               |          |                     | 2.5YR 7/ 1<br>底褐色<br>底褐色 | 2.5YR 7/ 1<br>底褐色<br>底褐色 | 良好<br>ナデ                | 注口部の<br>内<br>胎<br>運片   |               |
| 41       | 包食器<br>秆    |          | 1.7           | 13.0     |                     | NH<br>底褐色                | 5YR 6/ 1<br>底褐色<br>底褐色   | 良好<br>ナデ                | 口絞<br>胎<br>運片          |               |
| 42       | 包食器<br>秆    |          | 1.0           | 5.2      |                     | 2.5YR 7/ 1<br>底褐色        | 2.5YR 7/ 1<br>底褐色<br>底褐色 | 良好<br>ナデ                | 口絞<br>胎<br>運片          |               |

表 2-2 遺物觀察表(石製品)

| 編號<br>番号 | 遺物名<br>遺物名 | 写真<br>写真 | 器種<br>器種 | 法量(cm)<br>法量(cm) | 重量<br>重量 | 備考<br>備考       |
|----------|------------|----------|----------|------------------|----------|----------------|
| S-1      | 堆丘面上       | ○        | 不明       | 10.0             | 4.4      | 1.8<br>加工痕/半剖解 |

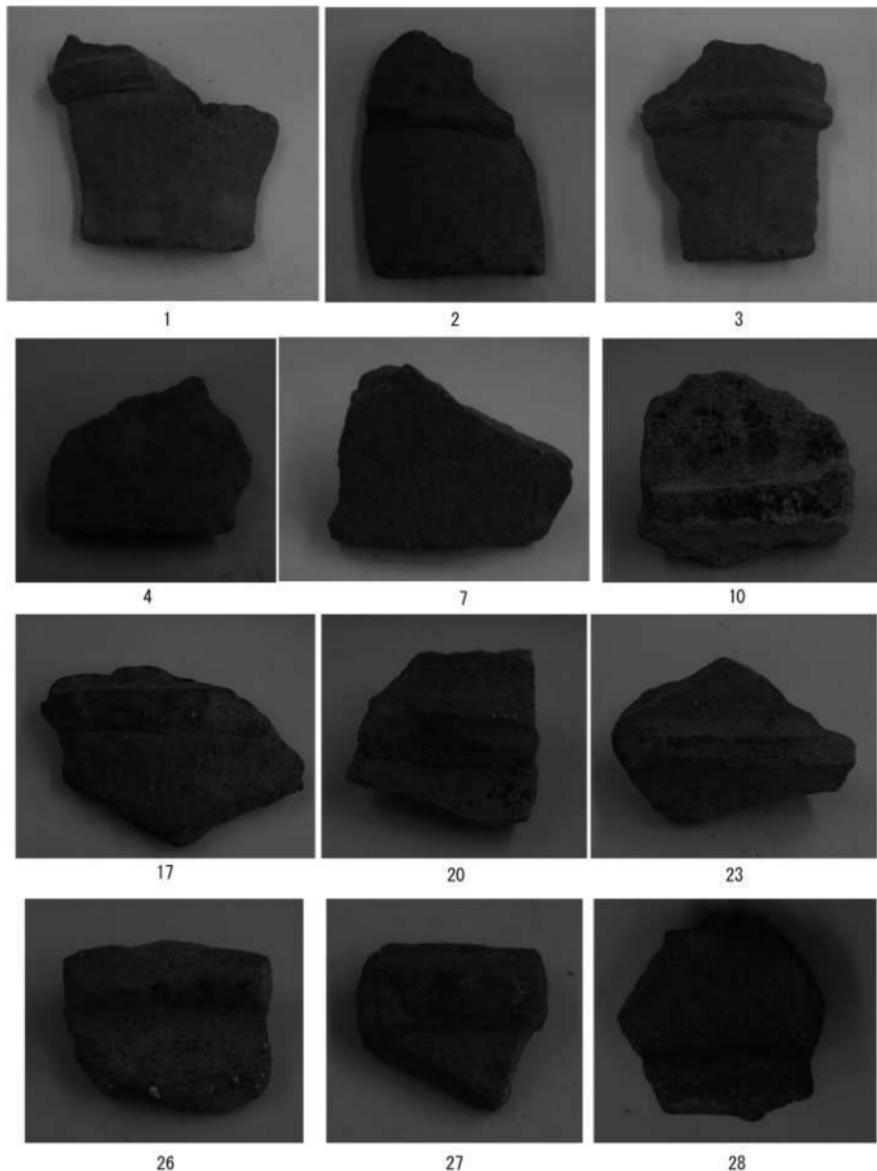
表 2-3 遺物觀察表(金屬製品)

| 編號<br>番号 | 遺物名<br>遺物名 | 写真<br>写真 | 器種<br>器種 | 法量(cm)<br>法量(cm) | 重量<br>重量    | 備考<br>備考       |
|----------|------------|----------|----------|------------------|-------------|----------------|
| M-1      | 堆丘面上       | ○        | 鉄剝       | 6.3              | 2.7         | 1.3<br>鉄剝の7%断面 |
| M-2      | 堆丘面上       | ○        | 鉄剝       | 6.3              | 0.9<br>1%断面 | 2.3<br>鉄剝の7%断面 |
| M-3      | 堆丘面上       | ○        | 鉄剝       | 4.0              | 1.6         | 0.6<br>4g      |

表 3 遺物觀察表(宿地古墳)

| 編號<br>番号 | 遺物名<br>遺物名 | 写真<br>写真 | 器種<br>器種 | 法量(cm)<br>法量(cm) | 長さ<br>長さ              | 施土<br>施土    | 色調<br>色調 |             | 燒成<br>焼成 | 調整<br>調整 | 施文<br>施文 | 操作狀況<br>操作状況      | 備考<br>備考 |
|----------|------------|----------|----------|------------------|-----------------------|-------------|----------|-------------|----------|----------|----------|-------------------|----------|
|          |            |          |          |                  |                       |             | 内面<br>内面 | 外面<br>外面    |          |          |          |                   |          |
| 43       | 石室内        | ○        | 萬特       | 圓筒(15)<br>圓筒(40) | 1m <sup>2</sup> 長石 墓室 | 2.5/7/1 灰白色 | 3/6/1 灰色 | 2.5/7/1 灰白色 | 良好       | ナフ       | △方<br>立燒 | 脚部<br>自然崩落        |          |
| 44       | 石室内        | ○        | 蓋        | 圓筒<br>3.6        | ~2m長石 墓室              | NS 灰色       | NS 灰色    | NS 灰色       | 良好       | ナフ       | △方<br>立燒 | 底部穿孔(燒成後) 高台<br>處 |          |

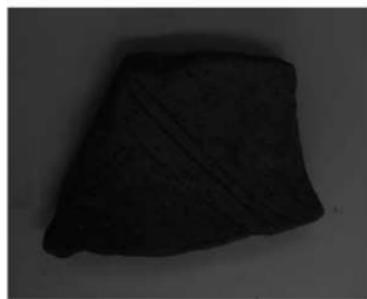
写真図版 1 盛土山古墳 円筒埴輪



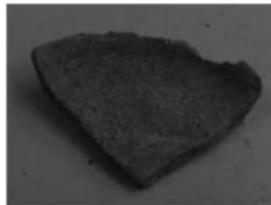
写真図版 2 盛土山古墳 形象埴輪 その他遺物



31



33



35



39



41



S-1



M-1



M-2



M-3

写真図版 3 宿地古墳 墳丘・石室



図版 3-1 墳丘（南側から）



図版 3-2 石室開口部周辺



図版 3-3 墳頂部の天井石の露頭（西側から）

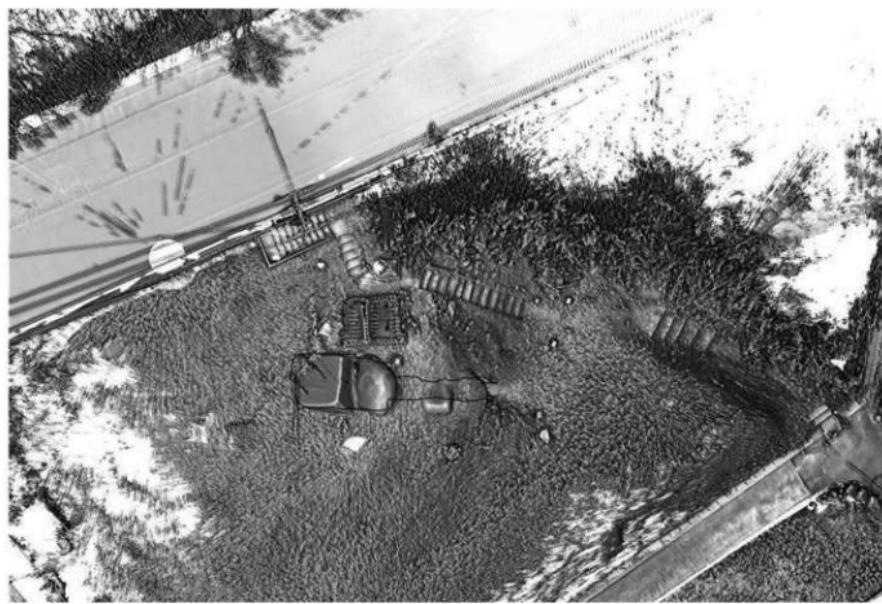


図版 3-4 石室 奥壁



図版 3-5 石室（羨道から玄室を望む）

写真図版4 宿地古墳 三次元地上レーザー計測画像(墳丘)

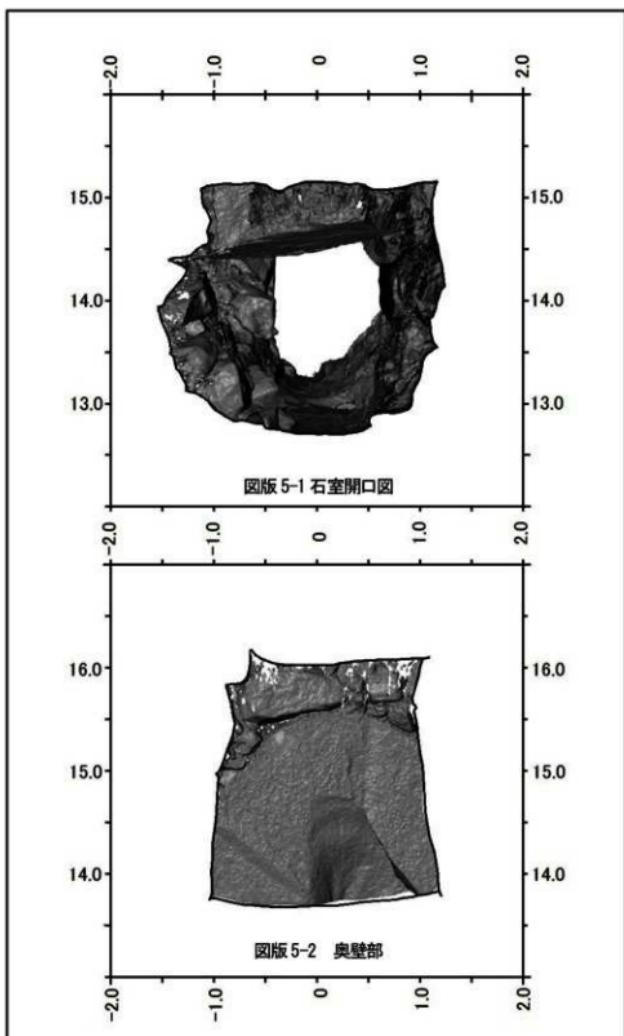


図版4-1 墳丘(直上から)

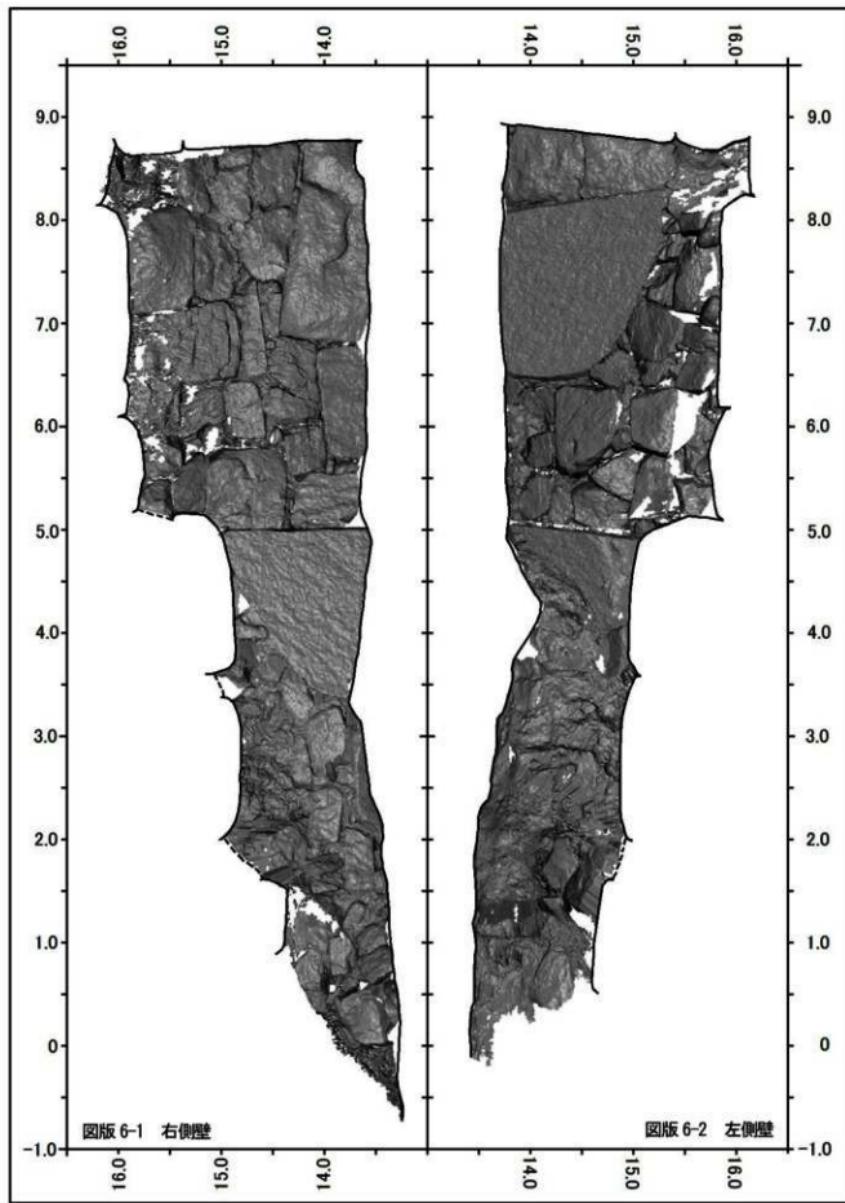


図版4-2 墳丘(開口部)

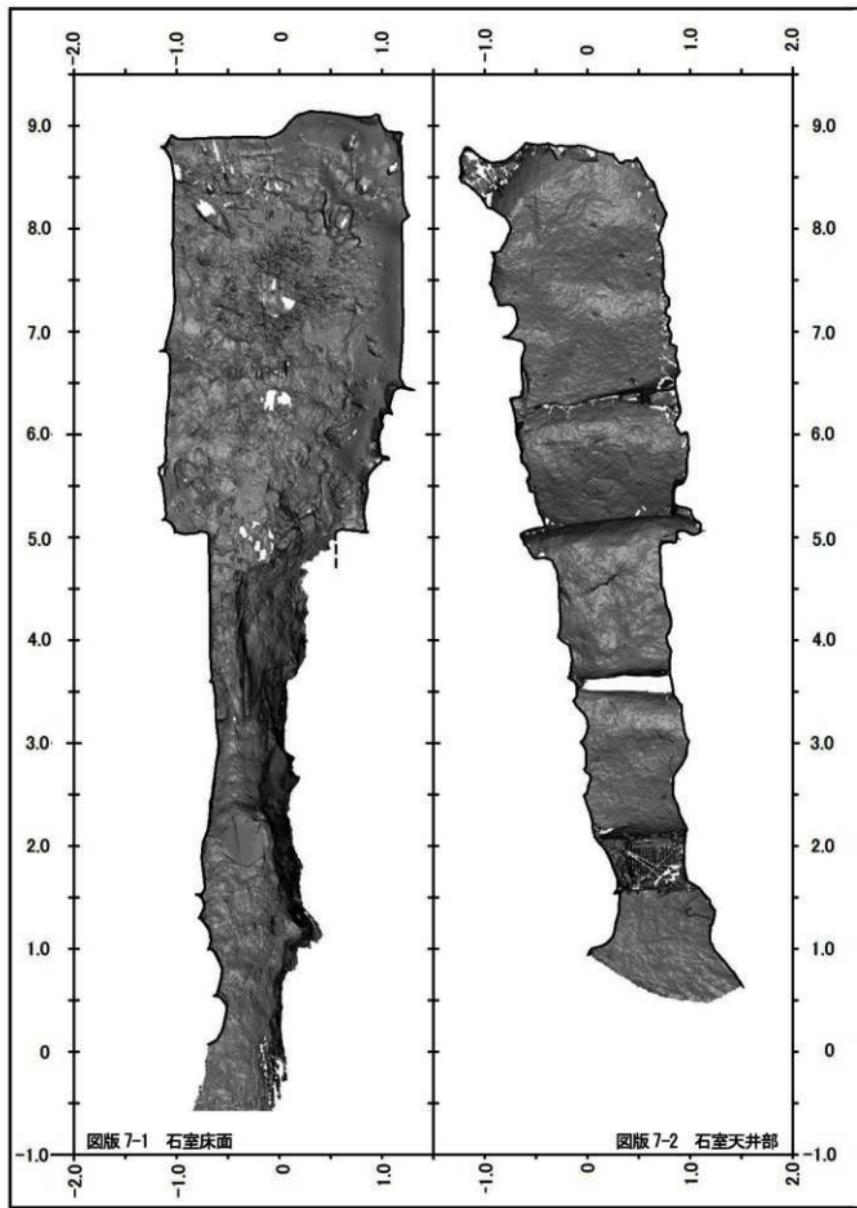
写真図版 5 宿地古墳 三次元地上レーザー計測画像(横穴式石室)!



写真図版 6 宿地古墳 三次元地上レーザー計測画像(横穴式石室)2



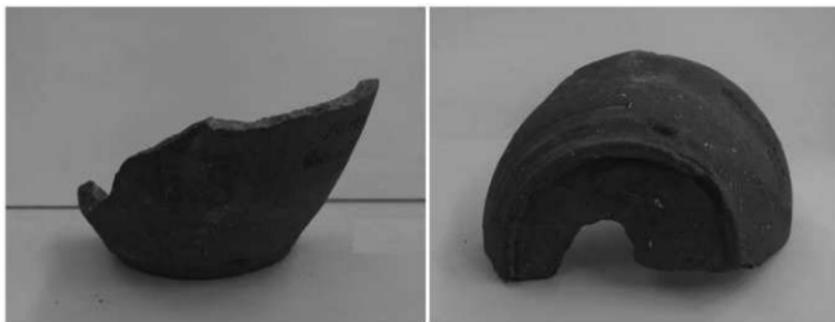
写真図版 7 宿地古墳 三次元地上レーザー計測画像(横穴式石室)3



写真図版 8 宿地古墳 採集遺物



43



44

## 報 告 書 抄 錄

|        |   |                  |          |                  |   |                       |                   |        |
|--------|---|------------------|----------|------------------|---|-----------------------|-------------------|--------|
| ふりがな   | もりつちやまこふんⅡ しゅくちこふん  |                  |          |                  |   |                       |                   |        |
| 書名     | 盛土山古墳Ⅱ 宿地古墳   |                  |          |                  |   |                       |                   |        |
| 副書名    | 香川県指定史跡「盛土山古墳」資料整理報告及び多度津町指定史跡「宿地古墳」確認調査報告                          |                  |          |                  |   |                       |                   |        |
| 巻次     |   |                  |          |                  |   |                       |                   |        |
| シリーズ名  | 多度津町内遺跡発掘調査報告書  |                  |          |                  |   |                       |                   |        |
| シリーズ番号 | 3   |                  |          |                  |   |                       |                   |        |
| 編著者名   | 白木亨   |                  |          |                  |   |                       |                   |        |
| 編集機関   | 多度津町教育委員会   |                  |          |                  |   |                       |                   |        |
| 所在地    | 〒764-8501 香川県仲多度郡多度津町栄町1-1-91 Tel : 0877-33-0700 Fax : 0877-33-0600 |                  |          |                  |   |                       |                   |        |
| 発行機関   | 多度津町教育委員会   |                  |          |                  |   |                       |                   |        |
| 発行年月日  | 西暦2021年3月31日  |                  |          |                  |   |                       |                   |        |
| 所収遺跡名  | 所在地   | ヨーダ              |          |                  | 北緯<br>° ′ ″<br>東経<br>° ′ ″  | 調査期間                  | 調査面積              | 調査原因   |
|        |   | 市町               | 遺跡番号     |                  |   |                       |                   |        |
| 盛土山古墳  | 香川県仲多度郡多度津町<br>大字奥白方字片山   | 37404            | 0003     | 34° 24' 82"      | 133° 73' 66"  | 2020.4.1 - 2020.10.30 | —                 | 資料整理調査 |
| 宿地古墳   | 香川県仲多度郡多度津町<br>大字青木字宿地802-2   | 37404            | 0026     | 34° 25' 89"      | 133° 74' 47"  | 2021.12.5 ~ 2021.12.8 | 225m <sup>2</sup> | 測量調査   |
| 所収遺跡名  | 種別  | 主な時代             | 主な遺構     | 主な遺物             | 特記事項  |                       |                   |        |
| 盛土山古墳  | 古墳  | 古墳時代<br>5世紀後半    | 墳丘<br>周濠 | 埴輪・土師器<br>須恵器・鉄器 | 円墳：墳丘直径42m<br>周濠を含む墓域直径75m<br>古墳時代中期後半の円筒埴輪を持つ<br>墓葬施設：不明   |                       |                   |        |
| 宿地古墳   | 古墳  | 古墳時代<br>7世紀第一四半期 | 横穴式石室    | 須恵器              | 円墳：墳丘直径13.5m<br>石室：羨道（残存）+玄室 残存長8.06m 玄室長3.9m<br>玄室最大幅2.23m 玄室最大高2.33m<br>玄室床面積10.9m <sup>2</sup> 玄室空間容積24.416m <sup>3</sup><br>古墳時代終末期の巨石墳 |                       |                   |        |

多度津町内遺跡発掘調査報告書 3

## 盛土山古墳Ⅱ 宿地古墳

令和 2 年度香川県指定史跡「盛土山古墳」資料整理報告及び  
多度津町指定史跡「宿地古墳」測量調査報告

令和 3 年 3 月 31 日 発行

編集・発行 多度津町教育委員会

香川県仲多度郡多度津町栄町 1-1-91

印 刷 (有) 西山印刷所

